

2009年度「未成年者飲酒予防基金」活動報告

1 実施内容

(1) 研究・活動概要の確認

研究の目的を構成メンバーで共通理解し、意識統一を図った。そこで、自校の実態に合わせてその特徴を生かしたり、他校のよい点から学んだり、お互い高め合う研究となるよう、積極的な意見交換の場を月1回設定した。

なぜ、未成年が飲酒行動をとってしまうのか、飲酒行動につながらないために児童生徒や保護者に対してどのような働きかけが必要なのか、教育活動全体の中でどのような指導を推進していけばいいのか、実態を把握した上で学校全体としての取組を研究し、実践していくこととした。

また、本研究会の特徴は、家庭や地域との連携が密にとれることであるので、その特徴を最大限に生かした研究を進めたいと考えた。

(2) 担当の確認および役割分担

研究を進めるにあたり、構成メンバーそれぞれがやりがいを持ち、責任をもって研究が進められるよう、企画、運営、記録、会計等の役割分担を明確にした。

(3) 質問紙の作成

児童生徒の実態を把握し、どのような働きかけや、指導をすべきか、どの行動要因に働きかける指導が効果的なのかを知るための調査がまず必要となる。そこで、『アルコールに関する質問項目』『飲酒行動関連要因に関する項目』『セルフエステーム（健全な自尊心）に関する項目』を、各自考え持ち寄った。あわせて、保護者への質問項目も同様に検討した。構成メンバーから提案された100以上の質問項目をグループ分けし精選しながら、本研究会独自の質問紙をつくり上げた。

結果を集計する際には、単なる実態把握にとどまらず、児童生徒を取り巻く環境や、心理状態等との相関関係について着目し、どこに焦点を当てた指導が効果的なのかを探る第一の手がかりとした。

(4) 質問紙調査の実施

各校で質問紙調査をする上で、教職員及び保護者の理解は不可欠である。そこで、飲酒防止教育の指導計画を提示し、質問紙調査の実施理由、ねらい、目的、実施後の活用方法を明確にし、共通理解の上で行った。

(5) 質問紙調査実施後の評価

質問紙調査を実施しただけで、調査対象者である生徒と保護者、さらに、教職員の未成年の飲酒防止教育に対する意識の高揚を図ることができた。引き続いて、学校全体の取組や指導をすすめると大変効果的であることが明らかとなった。

今回は、保護者にも質問紙調査を行ったが、質問項目の中には個人的な内容も含まれている。正確な回答を得るためには、個人情報取り扱いや回収方法等に十分配慮し、趣旨が理解された上で実施することが重要である。

(6) 未成年の飲酒防止教育指導計画の作成

質問紙の作成作業と並行して、構成メンバー各自が自校で、質問紙調査をどのように実施し、結果をどのように活用し、未成年の飲酒防止教育をどのようにすすめていくかについて、それぞれ指導計画を作成した。それらを各自がプレゼンテーションし、協議を重ねた。

教育活動全体を通じて未成年の飲酒防止教育を行うために、教育課程への位置づけや教職員の共通理解、家庭や地域との連携等、重要なポイントが確認された。一つ一つの提案を参考にしながら、指導計画をよりよいものにつくり上げることができた。

(7) 飲酒防止教育に活用できる教材紹介

指導計画では、最終的に学級活動等の授業を行う場合や、学校保健委員会、薬物乱用防止教室等を実施する企画がほとんどであった。そこで、飲酒防止教育に活用できる指導案や、体験学習ができる実験実習例、新聞の記事や広告、統計資料や参考になる実践例などをメンバー全員で持ち寄り共有した。

これらの教材は、いざ指導しようと思ったときに一人で収集するのは大きな労力がかかる。様々な手段で、それぞれが吟味したものを持ち寄ることができ、今後の指導に生かせる大きな財産となった。

2 研究成果

(1) 質問紙調査結果

生徒の質問紙調査結果の一部を見ると、

- 半数近くの生徒が飲酒の経験がある。
- 飲酒の場面として、多くは「家族・親戚と一緒にの場面」で飲んでいる。
- 「家族が話を真剣に聞いてくれない」と感じている生徒ほど、「先輩や友だちに酒を勧められたときに断れない」傾向にある。

などのことが、明らかになった。(詳しくは、活動報告の【詳細】を参照)

これらの結果をもとに、どこに焦点を当てた指導が効果的なのかを確認した上で、指導内容を検討した。

(2) 学校保健委員会の実施

質問紙調査の結果を受けて、生徒、保護者、教職員、専門医参加の下、学校保健委員会を行った。生徒保健委員による調べ学習の発表や先生方に対するインタビューの報告、体験活動として、アルコール・パッチテストを行った。パッチテストの結果の解説と、アルコールに関する正しい知識の習得のため、専門医からお話をいただいた。また、保護者や教職員のアルコールに関する考え方を生徒に伝え、一緒に考える機会を持つことは未成年の飲酒行動を抑止する上で、大変有意義であった。さらに、学んだことをもとにして、いざというときに正しい行動がとれるよう、飲酒のすすめを断る練習としてロールプレイングを行った。

3 今後の課題

この1年間で、質問紙調査を作成、実施し、結果を集計、考察し、実態にあった実践をすることができた。ただ、各校によって実態が違うため、現在取組の途中であり、これまで準備してきたものを来年度から実践化する学校もある。まだ、研究は進行形の状態である。

今後は未成年の飲酒防止教育が年間を通じ、教育活動全体を通して取り組めるよう、教育課程への位置づけを明確にしたい。さらに、学級活動において行動変容を促す授業ができるような教育プログラムの開発をしたいと考えている。また、未成年の飲酒防止教育を行ううえで、家庭や地域との連携は不可欠である。学校を中心に暖かく子ども達を育てる体制づくりを未成年の飲酒防止教育を通して進めていきたい。